

## 令和3年度 普及活動外部評価

### 【外部評価の目的】

普及活動が高度化・多様化する中で、外部評価委員会において、幅広い視点から客観的な評価を受け、その結果を今後の効率的・効果的な普及活動の推進に資する。

### 【実施概要】

(1) 日 時 令和4年10月19日(水) 午後1時20分～午後4時

(2) 場 所 果樹試験場、山梨市(現地調査)

(3) 評価対象及び方法

令和3年度の普及活動年度計画に掲げた32課題及び重点プロジェクト計画に掲げた4計画の活動実績を外部評価対象とし、この中から3つの普及活動を抽出し、評価委員へ具体的な説明と現地調査を行い、全ての課題について評価を受けた。

〈抽出した普及活動〉

- ①ももせん孔細菌病の根絶に向けた取り組み(峡東地域普及センター)
- ②県オリジナル品種等の導入による果樹産地の強化(果樹試験場)
- ③果樹剪定枝バイオ炭施用による4パーミル・イニシアチブの取り組み(農業技術課)
- ④現地調査:雨よけ施設を活用した収穫期延長の実証(こがらしぶどう部会)

### 【評価委員】

8名

○学識経験者

渡辺 靖仁氏(山梨大学生命環境学部地域社会システム学科 教授、座長)

○民間企業等

古屋 浩昭氏(山梨県中小企業団体中央会地域開発課 課長)

○マスコミ関係

保坂 真吾氏(山梨日日新聞社 論説委員)

○農業団体

足達 郁也氏(JA山梨中央会 専務理事)

原野 博氏(山梨県果樹園芸会 会長)

○農業者(先進的な農業者、女性農業者)

名執 昭仁氏(山梨県指導農業士会 会長)

佐藤 裕子氏(富士山すみれパティスリー 代表)

○消費者

梅原 隆子氏(パルシステム山梨 理事長)

【令和3年度普及課題一覧表】

	普及活動課題	活動 事項数	抽出した普及活動
1	中核的担い手の育成・支援	3	
2	新規就農者の確保・育成	4	
3	スマート農業の導入推進	2	
4	果樹の省力化と生産安定	3	①ももせん孔細菌病の根絶に向けた取り組み
5	果樹産地のブランド力の強化	5	③果樹剪定枝バイオ炭施用による4パーミル・イニシアチブの取り組み
6	野菜の生産安定	3	
7	水田農業の低コスト化と生産安定	1	
8	花きの生産安定とブランド強化	2	
9	畜産ブランドの育成と産地強化	2	
10	地域資源の利活用促進	2	
11	地域特産農産物の生産振興	2	
12	都市農村交流による農山村の活性化	2	
13	生産体制の構築	1	

【令和3年度重点プロジェクト計画】

	計 画 名	抽出した普及活動
1	スイートコーンの産地拡大に向けた取り組み	
2	施設野菜産地の強化に向けた施設内環境管理技術の改善	
3	オリジナル品種等を活かした花き産地の強化	
4	気象変動に応じた果樹の生産安定対策	②県オリジナル品種等の導入による果樹産地の強化

【評価項目と評価視点及び評価点】

評価項目	評 価 視 点
普及活動計画の内容	<p>(普及活動基本計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業者の意見や意向が十分に把握されているか</li> <li>・ 県、市町村等の計画との整合性はとれているか</li> <li>・ 市町村、農協、農業委員会等、関係機関との調整は行われているか (普及活動年度計画)</li> <li>・ 普及活動基本計画との整合性がとれているか</li> <li>・ 年度内に取り組む課題解決のための具体的な計画となっているか</li> <li>・ 普及課題は地域の現状や時代のニーズを考慮した設定となっているか</li> <li>・ 普及課題に即した具体的な目標が設定されているか</li> <li>・ 農業者や消費者の意向、地域状況の変化等を取り入れたものとなっているか</li> <li>・ 普及対象は適切に選定されているか</li> </ul>

普及活動の取り組み（体制及び手法）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的かつ継続的な活動体制となっているか</li> <li>・試験研究機関や市町村、農協等、関係機関との連携、役割分担はとれているか</li> <li>・普及活動計画の進行管理は適切に行われているか</li> <li>・活動方法、活動時期は適切であるか</li> <li>・情報の蓄積、管理や発信体制は適切であるか</li> </ul>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及活動計画に基づき活動が実施できたか</li> <li>・成果が地域農業者や産地の振興につながっているか</li> <li>・対象農業者の意識改革が見られた活動であったか</li> </ul>

## 【評価点】

■各評価項目及び総合評価について、下記の区分で評価

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

## 【各評価項目に対する評価点及び委員からの主な意見、提言】

### ■評価項目：普及活動計画の内容 評価点 4.8

- ・山梨県の農業を巡る諸課題を網羅的にカバーしており、盛りだくさんで意欲的である。重点プロジェクト計画も設けられており、制約ある体制のもとで実施事項に優先順位をつけていると理解した。
- ・普及基本計画実践2年目の取り組みであり、計画に沿った取り組みが着実に進められ、成果を出していることを評価する。
- ・ももせん孔細菌病の根絶に向けた取り組みは、生産地を守っていくために一体感とスピード感があり、高く評価する。
- ・オリジナル品種については、品種開発と計画的に栽培技術の普及に努め、農家への普及、産地強化に取り組む姿勢が理解できた。
- ・農家等では、赤系ぶどうの新品種を待ち望んでいたところであり「甲斐ベリー7」の普及と人気の高まりに期待する。
- ・地球温暖化対策やSDGsへの対応が叫ばれる中、4パーミル・イニシアチブの考え方とその実践は、農業サイドから脱炭素化に貢献できる新たな取組として注目に値する。
- ・4パーミル・イニシアチブについては「脱炭素社会実現」という今日的課題と農産物のブランド化を結びつけた意義のある取り組みを思われる。農業者への普及と共に消費者へのPR強化など、今後の展開が期待される。

### ■評価項目得：普及活動計画の取り組み（体制及び手法） 評価点 4.6

- ・これまで活躍してきたベテラン普及員が次々と定年退職しているが、専門員として若手の育成、農家との架け橋として活躍している点が心強い。
- ・ももせん孔細菌病の根絶に向けた取り組みについては、市町村、JA、農業委員会など関係機関と一体となった取り組みであり、他産地が生産量を大きく落とし、産地の維持が危ぶまれる状況にある中、本県においてはごく短時間で終息されたことは普及センターの指導力があったからこそ実現でき、モデル的な取り組みで高く評価する。
- ・オリジナル品種の開発・普及については、消費者の嗜好が変わる中での確かつ先見の情報収集のもとに開発を進め、産地の強固に繋がる優良品種の開発をいただいていることが理解できた。また、現地への普及についても、きめ細かい栽培技術指導や各産地に設けてい

る実証圃を関係機関と一体となって進めていることも理解できた。

- ・黒系品種で皮ごと食べられるオリジナル品種の開発を期待する。
- ・4パーミル・イニシアチブについては、職種を問わず国民共通の課題である環境問題に対する農業現場からのメッセージ性を持った先進的な取り組みとして理解した。また、きめ細かい研修機会を設けての普及は、他業種へのモデルとなるとともに認証制度や、ロゴマーク等の差別化に向け取り組みを進め、ブランド化に繋げていることを高く評価する。

#### ■評価項目：活動の成果 評価点 4.4

- ・生産から消費までのバリューチェーンを見据えた新たな産地形成のための斬新な取り組みと理解した。この継続と展開により、集落を超えた活動にも取り組み得ることとなり、山梨県発の豊かな地域づくりにも繋がるものと期待する。
- ・ももせん孔細菌病については、県、JA、農業者が一体となった取り組みが、短期間で終息宣言となったことは一番の成果で、新たな課題への対応にも活かせると思われる。また、顕著な成果に繋げた功績は、農業者にとって励みである。
- ・オリジナル品種の取り組みは、全てが産地の課題や将来性、産地の新たな挑戦として生産者のニーズを的確に捉え、強い産地づくりを実現する取り組みとして高く評価する。ぶどう「甲斐ベリー7」は、農家や消費者等に評価されていることから、迅速な普及とブランド化を期待する。
- ・オリジナル品種の開発・普及については、生産者の期待に応え果樹王国山梨のさらなる飛躍に繋がる成果として高く評価する。
- ・「4パーミル・イニシアチブ推進全国協議会」の発足と会員が拡大していることは成果であり「山梨県の農産物に環境に優しい」と認知される取り組みに期待する。

#### ■評価項目：総合評価 評価点 4.6

- ・普及活動が多様な価値観を持った様々な関係者を巻き込むものゆえに、誘因の設定にも大胆かつ挑戦的なものも求められるうえ、中長期の視点が必須の仕事ですので、柔軟な発想で忍耐強く取り組まれていることに敬意を表す。
- ・各事務所の取り組みは、きめ細やかで県の農業への熱量の高さを感じた。
- ・ももせん孔細菌病対策の取り組みは効果も取り組みも事例のように、今後も地域を越えた対応をしていくことが必要となる。
- ・農業者、法人、ワイナリー等が色々な対象者がいる中で、それぞれが活躍しやすい環境づくりを行っており評価する。
- ・これからも長期的な視点、消費者目線からのオリジナル品種の開発・導入と他県との差別化やブランド化、高付加価値化を図り、本県農業の発展を期待する。
- ・4パーミル・イニシアチブについて、環境への配慮と安全性といった時代の要請に応じた取り組みを理解した。今後、付加価値を高め、県内だけでなく全国への拡がりを期待される。

#### ■その他

- ・新しい産地形成に向けた夢のある施策展開に、皆が知恵を出し合える環境が醸成されたことこそが、この普及活動の成果であり真価と思う。
- ・現地視察したシャインマスカットの収穫時期を遅らせた「こがらしぶどう」とした付加価値を高める栽培は、ハウスが雪害を受けたことをプラスに転じる復興策として、標高の高い遅場産地性を最大限に生かす取り組みとして注目したい。
- ・現地調査の「こがらしぶどう部会」の取り組みは、ピンチをチャンスに変える発想と牽引するリーダーの存在が必要であることを実感した。
- ・地球温暖化が進む中で、各地域の特性を生かした特色ある農業ができるよう、これからもきめ細かい指導をお願いする。
- ・今後も現場のニーズ、喫緊の課題、将来を見据えたテーマを捉えた取り組みに期待する。

### 【評価を踏まえた今後の対応】

今回の評価対象とした令和3年度普及活動年度計画及び重点プロジェクト計画については、令和2年度から令和6年度までの普及活動基本計画に基づくものであることから、委員の皆様からいただいた評価及び意見をもとに、令和4年度の普及活動年度計画及び重点プロジェクト計画の活動内容及び活動方法の改善に反映させていくこととする。

### 【普及活動外部評価の様子】



評価委員への説明・検討状況



現地調査